普及だより

令和６年２月１日発行
第 64 号

茨城県県央農林事務所
笠間地域農業改良普及センター
TEL（0296）72−0701
FAX（0296）72−2718
ＨＰはこちらから→

笠間地域新規就農者激励会を開催

一月一七日、コミュニティセンター城里において、市町等関係機関が組織する笠間地域就農支援協議会が、新規就農者激励会を開催しました。

第一部は、令和四年度に笠間市、城里町で就農した二名に対し、興野副会長より激励のことばが贈られました。

新規就農者を代表して、城里町在住の綿引幸伸さんから決意のことばが述べられました。

第二部は、日本政策金融公庫河野貴大さんより「農業経営の始め方」と題し、融資を活用して成功した経営事例の紹介がありました。

その後、地元の後継者クラブである中央アグリクラブの紹介や、先輩農業者と新規就農者、これから就農する方々との意見交換が活発に行われました。

今後も関係機関一丸となって、地域の担い手となる方々を応援していきます。

農地中間管理事業を活用し、農地の集積・集約を図りましょう

第三回 いばらき米の極み 頂上コンテスト 城里町で五名受賞

茨城県が主催した県産米の「おいしさ」を極めた米を選出するコンテストの最終審査会が、一二月二一日に水戸京成ホテルで行われました。八八点の応募があった中、機械審査により、六名の生産者が選出されました。最終審査では、炊飯米を審査員が試食し、食味官能評価をもとに順位がつけられました。その結果、一位は薗部一さん、二位は飯村昭司さん、三位は片岡蔵之さん、四位は大木昇さん、六位は飯村祥一さん（いずれも城里町）が受賞し、最終審査の六名中五名が城里町の生産者でした。一位のお米は県が買い取り、首都圏の米卸業者やホテル等へ売り込み、販売PRをしていきます。

普及センターでは、今後も良食味米産地の支援を続けていきます。

コンテスト表彰式の様子

笠間地域就農支援協議会と新規就農者農業講座の合同研修会を開催

一一月八日に、那珂市にある芳野農産工房と㈱綿引農園を訪問しました。那珂市担当者より「那珂市における農業担い手の課題とその対応」を、綿引農園の綿引桂太農業経営士より農園の概要、環境制御トマトハウスの説明を受けました。

具体的には那珂市から、農業担い手の育成支援を目的に協議会「MIRAI」を立ち上げた農業後継・新規就農への支援について、綿引農園では完熟採りの「あとひきトマト」の販売や、会社を設立した経緯などを伺いました。

参加者からは、市の支援内容や農園の販路拡大について質問が寄せられるなど、有意義な研修会となりました。

合同研修会の様子

栗栽培開始講座を開催しました

普及センターでは、毎年、栗栽培を始めて間もない方や、始める予定の方を対象として、栗産地の新たな担い手の確保・育成を目的とした講座を開催しています。

一月のせん定講習会には四三人が参加し、実際の栗ほ場で、せん定作業を体験しました。

受講生からは、栗の栽培から販売まで学ぶ機会ができてよかった、これを機に栗を植えてみます、との意見が多くありました。

来年度も、講座を開催する予定です。興味のある方は、普及センターまで御連絡ください。

栗栽培開始講座の様子

「いばらき農の6次化コンテスト」が開催されました

一二月六日に農業総合センターにおいて「いばらき農の6次化コンテスト」が開催され、県内各地の特産品などを使った商品が一三点出品されました。

管内からは㈱アドバンフォースが「カサマロンカフェモンブラン」を出品しました。生産から加工まで一貫した栗の鮮度を保つ工夫と栗の風味や香りが評価され、特別賞である「県産素材賞」を受賞されました。

今後も普及センターでは、地域特性を活かした加工品を支援していきます。

表彰式の様子

県内で農機具盗難が多発。機械は倉庫へ、鍵は別にして保管しましょう

「カシノナガキクイムシ」によるクリの「ナラ枯れ」被害に注意！

近年、県内で森林害虫のカシノナガキクイムシ（通称：カシナガ）による樹木の枯死が増加し、問題となっています。

カシナガは体長四～五㎜程度の小さな虫ですが、集団で行動し、ナラ菌という病原菌を媒介します。カシナガの食害を受けると、樹木は「ナラ枯れ」という病気を発症し、急激に枯死してしまいます。

カシナガは、主にコナラやクヌギなどのナラ・カシ類の樹木を食害します。笠間市の特産物であるクリも、これらの樹木と近縁種であるため、食害される可能性があります。

「ナラ枯れ」で枯死した樹木を放置すると、カシナガが樹木内で繁殖・越冬し、付近の健全な木に飛来して被害を広げてしまいます。

被害拡大を防止するため、クリ樹の異常な枯死を確認した場合は、普及センターに御相談ください。

令和五年産の水稲の品質結果と来年産への対策について

本年の夏は異常気象となり、平年と比べて平均気温が、七月で二・三度、八月で二・一度高くなりました。特に、出穂後二〇日間の平均気温が本年は二七・七度で、白未熟粒リスクが高まる二七度を超えました。その影響のため、本県の一等米比率は前年より十ポイント以上低くなりました。

来年以降も同様の高温が想定されますが、高品質米生産のためには基本技術（「土づくり」「適期田植え」「中干しによる茎数制御」「適切な水管理」「適期収穫と適正乾燥」等）の励行が重要です。また、高温時には間断かん水やかけ流しにより水温を下げましょう。籾数過剰や極端な肥料制限は白未熟粒の発生を助長します。さらに高温による刈り遅れにも注意しましょう。その他、高温耐性品種の「にじのきらめき」等の導入も効果的です。

落ち葉処理から本年の果樹栽培をスタートしてください！

果樹病原菌の多く（黒星病、灰色かび病、べと病、さび病、うどんこ病、落葉病など）が樹園地内の落ち葉に、ハダニ類などの害虫が落ち葉の下などで越冬し、次年度の病害発生の原因となります。落ち葉はそのまま放置しないで、ブロア等でできるだけ丁寧に集めて園外へ持ち出し、腐葉土となるまで園から離れた場所で管理し、後にたい肥として有効利用しましょう。

持ち出しが難しい場合は、園内で落ち葉が集まる場所（風下）に深さ四〇㎝程度の適当な幅で溝を掘り、溝に集めて土中に埋めるなど、落ち葉を集める工夫をし、必ず適切に処分しましょう。

また、自走式草刈機（ハンマーナイフタイプ）で粉砕処理後、落ち葉が地表に浮き上がらないようゆっくりとトラクター（ロータリー）で五㎝程度中耕し土壌へすき込むのも効果的です。

たい肥の利用について

世界情勢の変化に伴い化学肥料の価格が高騰しています。これを機にたい肥等有機物を活用し化学肥料を低減する施肥法に取り組んでみてはどうでしょうか。

古くからたい肥等有機物は肥料として利用されてきました。たい肥には、窒素の他、リン酸、カリ等が含まれるため、施用を続けると養分間のバランスが崩れることがあります。定期的に土壌診断をすることにより養分状態を改善することができます。

広域に流通しているたい肥等は内容成分が明確なことが多く、成分含量と肥効率（化学肥料に比べた肥料効果）から施肥量を計算することができます。茨城県が開発した「たい肥ナビ！」を活用して施肥量を計算することもできます。

定期的な土壌診断により、土壌養分の多少を把握し、足りない分のみ補給していくのが無駄のない施肥法といえます。

たい肥ナビ
web版

県央地域青年農業士会で研修会を開催

一二月一四日に笠間市の㈱アドバンフォース加工施設、田村きのこ園において、県央地域青年農業士会の研修会が開催され、五名が出席しました。アドバンフォースでは、福祉部門から農業へ参入し、栗栽培及び加工を開始した農福連携の取組について紹介があり、その後栗加工施設を見学しました。田村きのこ園では、川島拓氏から第三者継承を行うまでの経緯から今後に向けた取組について、紹介がありました。

会員と研修先とで活発な質疑応答や情報交換が行われ、非常に有意義な研修会となりました。

アドバンフォースの事例を聴く会員

中央アグリクラブで研修会&クラブ員募集中！

笠間市と城里町の若手農業者が集まる中央アグリクラブで、一二月五日に千葉県旭市にある朝日アグリア㈱の千葉工場で県外研修を実施しました。

化成肥料原料のほとんどを輸入している日本では、諸外国事情の影響を大きく受け、肥料の価格が高騰し、農業経営に大きな打撃を与えています。このような中、朝日アグリアではたい肥などの国内資源を肥料化する取り組みを行っており、有機原料を粒状化する作業工程を視察しました。クラブ員からは、高窒素成分の有機質肥料の開発や、有機原料の提案など積極的に意見や質問が挙げられ、肥料への関心の高さが感じられました。

中央アグリクラブでは、年に数回研修を実施し、情報収集や交流の場づくりを行っています。また毎月の定例会で情報交換しています。

ぜひ参加してみませんか？興味のある方は普及センターまで御連絡ください。

農福連携の推進について

近年、本県においても取組が急増するなど、農福連携が注目を集めています。

農福連携とは、障害者等が農業分野で活躍することを通じ、自信や生きがいを持って社会参画を実現していく取組です。農福連携に取り組むことで、障害者等の就労や生きがいづくりの場を生み出すだけでなく、担い手不足や高齢化が進む農業分野において、新たな働き手の確保につながる可能性もあります。

また、農福連携の対象も、生活困窮者、ひきこもり支援、犯罪・非行をした者の立ち直り支援等にも広がり、社会的な意義もますます重要性を増しています。

皆さんも、一緒に農福連携に取り組んでみませんか。希望を踏まえ、補助事業の紹介や福祉事業所とのマッチングなどを支援いたします。

興味のある方は是非一度、普及センターに御相談ください。

令和六年度 茨城県立農業大学校 入学生募集のお知らせ

県立農業大学校では、高校等の卒業者（若しくは見込者）を対象に農業部（農学科四〇名・畜産学科一〇名）、園芸部（園芸学科三〇名）を募集します。

研究科（作物・園芸・畜産の専攻コース）の学生募集は後期日程ではありません。

▼入学願書の受付期間

○一般入学・後期（各学科）

令和六年一月二九日～二月二〇日

入学試験日

令和六年二月二九日（木）

▼問い合わせ先

茨城県立農業大学校

電話（〇二九―二九二―〇〇一〇）

FAX（〇二九―二九二―〇九〇三）

▼農大ホームページ

農業総合センター農業大学校／茨城県 検索